

# 子ども達のボール遊び環境の創出による学校の新たなモデルの構築

・地域住民の最も身近な学校体育施設を開放し、施設の個人利用を促進するとともに、これらの取組を積極的に普及啓発することで、地域に開かれた学校づくりの起点として、関係者への共感を図り、横展開することができる基盤を検証する。

## 事業の趣旨・概要

①公園等において禁止事項が多く、子ども達がボール遊び等思いっきり遊ぶ環境が地域内に少ないため、**地域の身近にある学校体育施設を積極的に活用**することが必要。

②学校体育施設の開放事業は、団体利用が多いことから、個人で気軽に参加することが難しいことから、**自由に運動・スポーツを行う機会を創出**することが必要。

③学校が子どもの遊び場としての役割を担う意義が見いだせず、全国各地で取組が進んでいない現状があることから、**関係者のメリットを見える化**することが必要。

### 1. 学校の校庭の開放によるモデル事例の創出

- ・市内の小学生以下を対象に、学校の校庭・体育館を開放し、気軽にボール遊び等ができる環境づくりの実証を行った。



### 2. 「遊び」という概念で、気軽に参加することができるコンテンツ・プログラムの創出

- ・鬼ごっこにボール遊びの要素を加えた「おにごっこ×ボール遊び」という新しい遊びプログラムを開発した。



### 3. 事業の背景、学校が取り組む意義とその想い、実証結果と考察をPR記事WEB発信

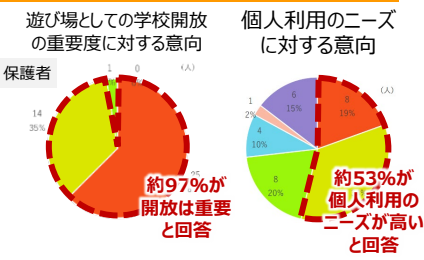
- ・①社会課題配信、②プログラム構築・取組内容、③今後の展望といったフェーズに分け、訴求しやすいストーリーで発信した。



## 事業の成果

### ● 地域住民のニーズへの対応

- ・アンケート結果より、ボール遊びができる場所が減少していることに対して課題感を感じていること、地域住民が「個人」を対象とした今回のような取組を希望していることを改めて再認識することができた。



### ● 満足度の高いプログラムの実現

- ・アンケート結果より、プログラム自体への満足度が高いものとなった。
- ・How To動画の制作により、誰もが気軽にトライできる環境を創出した。



### ● スポーツの場づくりに加え、学校側のメリットも創出

- ・地域住民のニーズにあった取組を実施することで、親しみ・好感が持てるといった意見もあり、地域貢献を行っている印象を与えることができていた。
- ・本事業では、このような効果についても発信し、広く普及することができた。



## 今後の展望

### ■ 本モデルケースの更なる展開・波及

- ・ボール遊び場の場が少ないといった課題は、「都心部」にて問題になっているケースが多いと考えられるため、引き続き、より多くの地域住民が個人で利用できる場づくりを推進する。また、実施ハードルを下げるため、運営面・安全面での簡略化や、有料化による収益性アップなども検討することが求められる。

### ■ 「地域における学校のあり方」の検討に向けた整理・検討

- ・本事業を通して、学校側にもメリットがあることを明らかにすることができたメリットを今後横展開できるよう、その効果に基づく「地域における学校（体育施設）のあり方」の整理・抽出が求められる。